

平成25年度 第1回島根県農政審議会 次第

日 時：平成25年11月8日（金）10：00～17：10

場 所：松江東急イン、現地

- 1 開会
- 2 農林水産部技監あいさつ
- 3 出席者の紹介
- 4 島根県農政審議会について
- 5 議 事
 - (1) 会長、会長代理の選任
 - (2) 現地調査について
- 6 閉会

※閉会后、現地調査（行程は別紙参照）

平成25年度

島根県農政審議会現地調査 説明資料

～ 資料内容 ～

- ① 松江尾道自動車道 道の駅 たたらば壱番地 産直市 「よってごしな菜」 資料1

- ② JA雲南 産直事業 「地産都商」 資料2

- ③ (株) 未来サポートさだ 資料3

- ④ 牧場のパン屋さん” カウベル” (伊藤牧場) 資料4

平成25年11月8日(金)

島根県農林水産部農林水産総務課
島根県東部農林振興センター



産直市 **さい** **よってごしな** 菜

有限会社 木村有機農園

(代表：木村晴貞)

島根県雲南市吉田町吉田4378-31
TEL・FAX 0854-74-9345

【特徴】

- ◆農産物直売所のなかった雲南市吉田町で初の直売所
- ◆販売を目的とした生産組織「吉田掛合野菜加工品出荷組合」の設立
- ◆雲南農業協同組合と連携した販売システムの構築
- ◆安心安全な農産物コーナーの設置
(エコファーマー、減化学肥料減農薬栽培、農家等の栽培する農林産物コーナー)



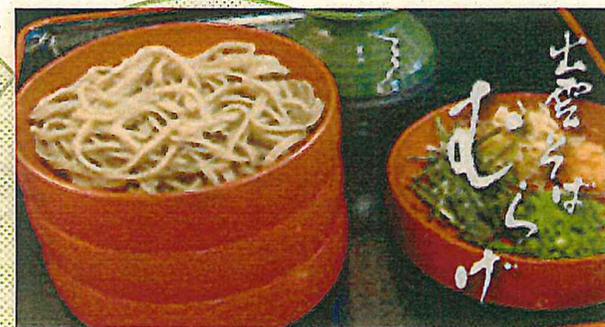
出荷者組織

吉田掛合野菜加工品出荷組合
平成24年12月10日 設立
会員数(H25年10月現在)
195(個人 160、団体 35)

「少量でも安全安心で、おいしい野菜作りに取り組みたい」という思いから、木村有機農園は中国四国地域のエコファーマー第1号の認定を受けています。

農園が立地する雲南市吉田町は山間地であり、地形の状況から大量生産や大規模経営によるコスト削減等が出来ないため、「少量でも安全安心で、おいしい野菜作りに取り組みたい」という思いから、減農薬、減化学肥料に取り組んでいます。

創業当時より、消費者ニーズに合った、安全、安心な農産物の生産を心がけており、今後もそのことを理念に取り組んでいます。



【特徴】

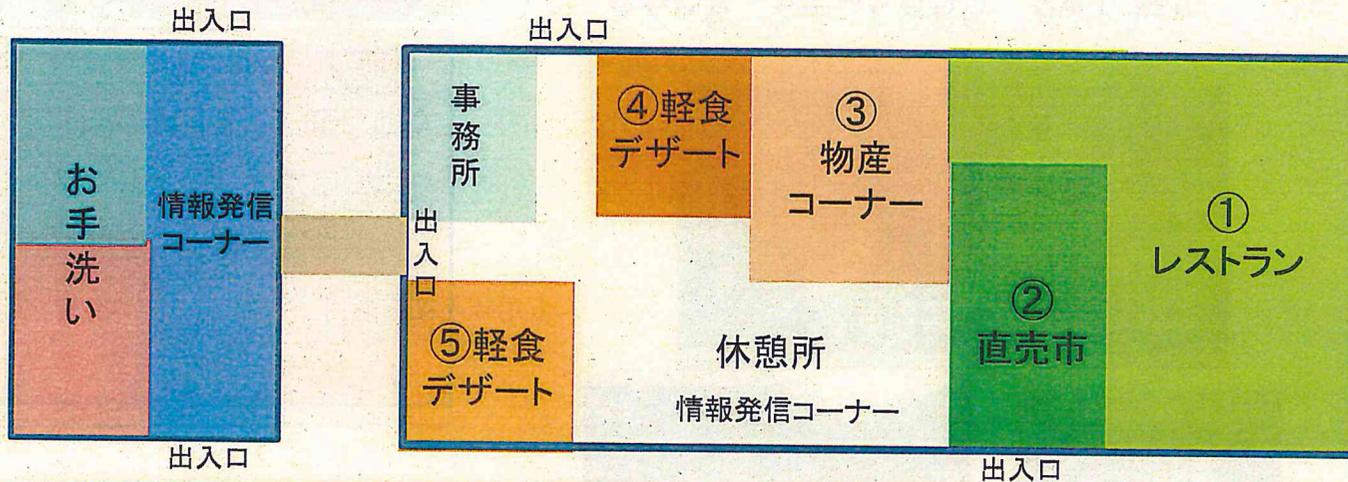
- ◆地元産ソバを使用した出雲10割そばメニューの提供
- ◆雲南市集落営農ネットワーク会議との連携によるソバ生産の拡大
- ◆副菜への地元農林産物使用による所得向上

平成25年3月に
オープンしました



道の駅 たたらば壺番地

(指定管理者 株式会社 吉田ふるさと村)



雲南市吉田町吉田4378-31

TEL 0854-74-0018

駐車場 29台

(普通車 22台、大型車 5台、
身体障害者用 2台、
24時間利用可能)

営業時間 9:00~20:00、年中無休

(レストランは11:00~20:00

産直市は9:00~17:00)

④立ち寄り軽食 TATALOVER~ たたらば~

地域の特産品と吉田ふるさと村の商品を使っています。



③お土産屋 たたらっち

島根県の代表的なお土産から雲南市の特産品まで取り揃えています。「しまねの吉田くん」の故郷にちなんだオリジナル商品もあります。

①出雲そばレストラン むらげ

地元産蕎麦を使った十割そばや地元産の野菜を中心としたメニューを提供しています。



⑤出雲山内鶏卵の里 ままたまご

田部養鶏場の直営店です。主なスイーツ類は直接製造しています。



②産直市 よってごしな菜

地元生産者の真心のこもった新鮮野菜や加工品を揃えています。



平成25年度 島根県農政審議会 現地調査
雲南地域 事例紹介資料
平成25年11月8日(金)



産直事業

町づくりも物づくりも
人づくりからはじまる。

奥出雲



環境にやさしい取り組みをはじめました

(地産都商)

奥出雲産直振興推進協議会

雲南地域の現状

松江自動車道開通以降、国道54号線の通過交通量が減少し、沿線の観光施設、農産物直売所も大きな打撃を受けています。

地域の輝きを戻すために、行政やJA及び関係機関が連携をして、新たな地域ビジョンの策定が急務とされています。

飯南町では、広島三次に新たな販売拠点を整備し、奥出雲町では「あじわいロード」と銘打ち地区外からの集客を農商工連携にて展開を図り、雲南市では松江尾道線の全面開通を視野に入れて、更なる展開が模索されています。「里山が枯れるまでに、今できることを全力で……」

JA雲南管内の概要

◇販売農家数(戸)

	2000	2005	2010
雲南市	4,046	3,452	3,071
奥出雲町	2,135	1,903	1,756
飯南町	923	788	682
合計	7,104	6,143	5,509

◇経営耕地面積(ha)

	2000	2005	2010
雲南市	2,957	2,503	2,383
奥出雲町	2,286	1,996	2,132
飯南町	1,006	904	1,102
合計	6,249	5,403	5,617

	島根県	雲南市	奥出雲町	飯南町
人口(人)	717,397	42,322	14,674	5,498
世帯数(戸)	262,219	13,802	4,819	2,148

組合員数 正組合員 11,610 ・ 准組合員 14,283

産直会員数 2,885人(平成24年度末)

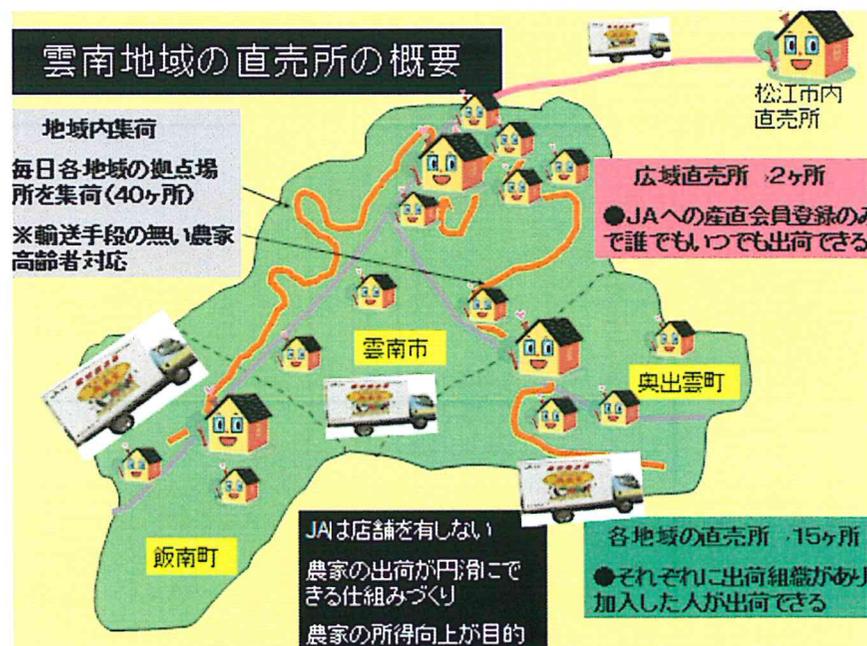
JA管轄直売所数 21ヶ所(但しJA店舗ではない)

雲南地域の直売所の概要

地域内集荷

毎日各地域の拠点場所を集荷(40ヶ所)

※輸送手段の無い農家
高齢者対応



●JAへの産直会員登録のみ
で誰でもいつでも出荷できる

JAIは店舗を有しない
農家の出荷が円滑にできる仕組みづくり
農家の所得向上が目的

●それぞれに出荷組織があり
加入した人が出荷できる

地産地消と地産都商の両輪!!

田舎の魅力再発見!!



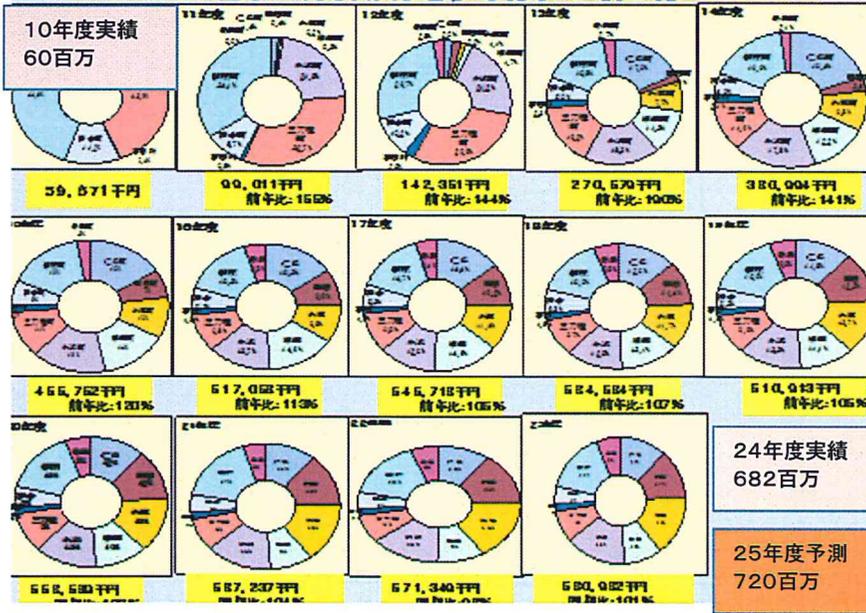
生産者の喜び・励み・生きがい・楽しみ

農業が楽しい!!

消費者との信頼関係の構築「人と人の絆が生まれる」



地区別販売実績の推移



鳥根奥出雲産直事業 登録会員数・販売高 推移表 H24年末

年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
奥出雲町 備前	8	150	380	417	420	420	412	424	430	440	474	481	492
仁多	14	30	100	189	190	220	263	303	309	322	360	370	379
雲南市 大東	14	90	120	152	160	175	177	298	310	356	355	373	383
加茂	26	90	240	260	260	270	264	281	285	286	307	310	319
木次	152	160	210	212	215	230	228	242	243	263	272	287	291
三刀屋	140	120	130	192	195	210	218	231	232	240	244	248	254
吉田	31	50	60	61	65	70	69	70	71	72	91	92	116
組合	25	60	120	129	130	148	145	127	126	134	132	136	146
坂南町 帆原	60	80	80	99	100	80	150	149	150	154	173	180	192
赤井	89	90	160	216	220	230	252	268	270	274	300	306	313
合計	559	920	1,600	1,917	1,955	2,053	2,178	2,393	2,426	2,541	2,708	2,738	2,885



平成25年10月17日
県立農林大学校



平成25年10月11日
出雲農林高等学校 関西フェア視察

食農教育と地産地消の連携

～雲南市大東中学校の商人体験～

事前にPR活動・特産品販売について模擬販売を通じ、レクチャーを受ける。

JA雲南果樹センターで販売する農産物の栽培状況を見学JAの担当者からぶどうの品種、栽培方法について説明を受ける。

食農教育と地産地消の推進

～雲南市大東中学校の商人体験～

大阪南港にて奥出雲の農産特産物を販売し、PRを実施。大東中学校出身者も訪れ、交流を図りながら地元の農産物への愛着を持ち、取り組んだ。

栽培の秘訣を伝授！！

品種特性と栽培管理の講習会



優秀な生産者現場視察



農薬使用法の講習会



生産履歴簿の記載講習



畑での勉強会 実技講習(有料)



畝立ての講習 新人



マルチかけの講習

農幸民族



ホーレン草種まきの講習



アスパラ種まきの講習

商品の品質は人格を現す OK！



これらはすべて商品の大きさをそろえて出荷されています。
不揃いのものはこれらに比べ、非常に売れやすいです。



商品の品質は人格を現す

過度の虫食い



虫食いと葉の変色



商品の品質にも注意



これらは全て阪急フェアに出荷された商品です。
「ちょっとくらい虫に食べられてても・・・」「ちょっとくらい色が変わっても・・・」
なんていう考えは厳禁！！お客さんはちゃんと見ていますよ！！



穴があいている



過度の虫食い



中が変色している

豪雪を販売チャンスにする・・・農家の努力



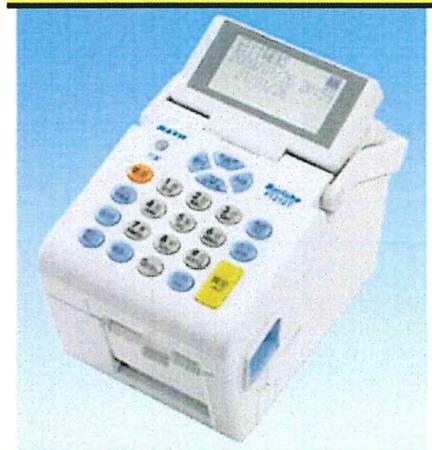
食べ方・・・生産者からの消費者へ

エゴマ
生葉を炒めたり、天ぷら
刺んで薬味にするほか
韓国では葉で肉や魚、
飯などを包んで食べます。

多山の雪の中から
振り出した
キャベツです！
飯浦町 山本

コンニャク
茅らかく造り
すりこぎに
すくおさしみ
に酢みそに
してでも食べ
べれます
うま食

手軽で簡単操作 農家が大喜び



出荷日、賞味期限など日付は自動で印字します。原材料名は登録しておいてらくらく表示。



1つ1つの文字が大きくQRコードも印字可能です。お客様も手にとってくれます。

茹でて和え物にどうぞ！

コメントも自由自在！オススメの食べ方や保存方法など工夫したい。

生産者個人で購入
県の補助事業を導入

JA雲南管内 産直生産者向け「QRコード」による販売戦略

＜＜目的＞＞

- 消費者の求める生産者情報を生産者が「QRコード」対応の出荷表示ラベル発券機を持ち商品に添付することにより、ホームページ上から閲覧することのできる仕組みの構築。

消費者が携帯カメラで読み込む



農家への思いが消費者に伝わる

農業者の「顔写真」と「生産圃場」と 日本古来の農耕民族の熱い想い

STEP 1

STEP 2

STEP 3



※発注インターフェイスを設けることで消費者からの産直品の購入の機会を増やす。
 ※注文連絡が生産者に直接入ることで、生産者の意欲と品質の向上を目指す。
 ※システムの活用により戦略的に次の生産に取り組める。

タブレット端末の活用！



生産者

注文が入ると、生産者が利用する画面の右上「注文有！」のマークが点滅します。

注文書	宛先	名称
タイトル	注文内容	
このメールはご注文を受理するためのシステムより自動配信されています。		
上記のお名前と商品名は注文内容に付きませんのでご注意ください。		
お客様先	佐野県高田市	〇〇〇〇〇
ご注文品	〇〇	〇〇
電話番号	090-1234-5678	
注文品	〇〇〇〇	〇〇



(お集荷担当者は、
集荷場に野菜を
集荷に行く)



消費者へ
D-1でお
届ける

広域産直施設への集荷配送体制図

毎日20ヶ所程度の集荷場所をトラック2台で集荷を行い、
生産者が出荷した商品を各店舗へ配送する。



JAの旧支店後の有効活用



集落内の空き倉庫



集荷
支所

倉庫

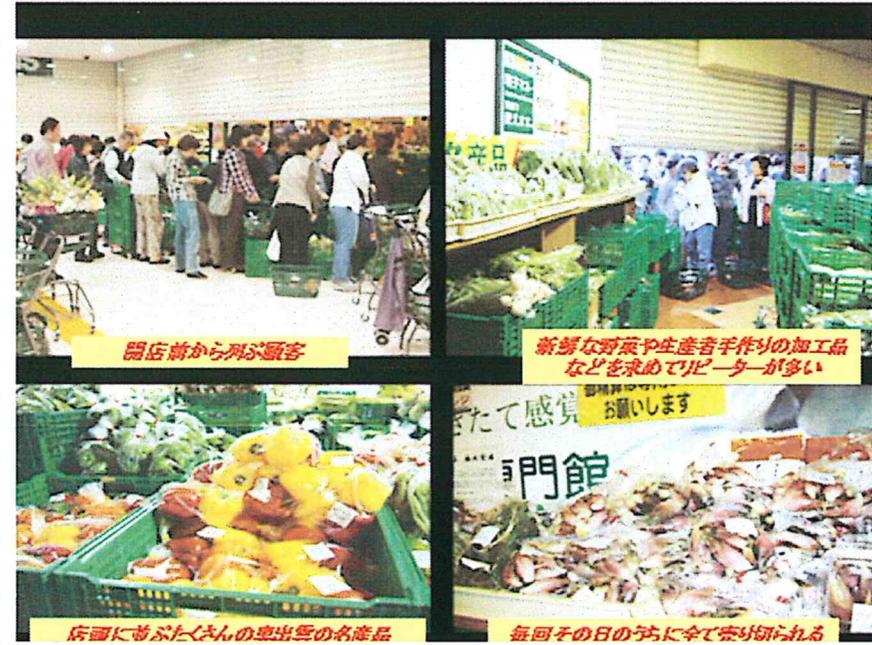
(地産地消の精神を引き継ぐ地産都商)

中山間地域においては、地元の消費人口は限られており、地産地消による販売には限界がある。そのため、中山間地域での直売事業では、その発展過程の中で地域外に販路を広げることが課題となってくる。また経済状況が厳しい中山間地域においては、地域外に販路を広げることで収入を得ることは、地域経済の活性化にも大いに貢献することになる。



サテライト方式(田舎の直売所を再現)

店舗の一角を借りる《宿借り商法》



地産都商の取り組み

関西 阪急オアシスでの定期的なフェアの開催



平成13年度から、関西方面への販路拡大を目的に県大阪事務所との連携により、「しまねフェア」を開催。(産直野菜はH15年度から実施)

平成17年度から産直野菜の取り扱いを開始。平成18年度から、産直野菜の出産者によるフェアを開催。平成19年度から、産直野菜の出産者によるフェアを開催。

地産都商の取り組み 視察研修を併せて行い生産者自ら消費者動向を探る。



奥出雲産直振興大会



今年もガン
バルぞお!

- 第1日 岡山県 瀬戸内市
- 第2日 玉置温泉 ホテル玉泉
- 第3日 兵庫県 伊丹市
- 第4日 玉置温泉 松の湯
- 第5日 玉置温泉 ホテル玉泉
- 第6日 玉置温泉 ホテル玉泉
- 第7日 山口県 湯田温泉
- 第8日 鳥取県 三朝温泉
- 第9日 徳島県 徳島市
- 第10日 兵庫県 淡路市
- 第11日 大分県 別府市
- 第12日 京都府 宇治市
- 第13日 兵庫県 宍粟市
- 第14日 高知県 高知市

第6回奥出雲産直振興大会

つなげよう産直、広げよう出雲

優良生産者表彰

研修の他に、優良な実績・取り組みを行った生産者を表彰し、讃える。



1. 組織設立の必要性

- ・1集落1営農組織では、地域を守れない状況になった。
- ・1組織で機械の更新や、転作対応の機械を導入するにはリスクが高すぎる。
- ・高齢化により、オペレーター不足。

【基本理念】 連携により1集落営農組織の持続的な体力強化
 ～地元地域は地元で守る！～

- 「人」=オペレーターの派遣など、組織間の調整が必要。安定した雇用。
- 「物」=組織を横断した機械の利用調整が効果的。
- 「金」=機械導入による負担を軽減する。組織的な補助金の申請。

佐田町の集落営農8組織により
 広域連携組織『未来サポートさだ』の設立・・・平成24年3月



2. H24年度の取り組み

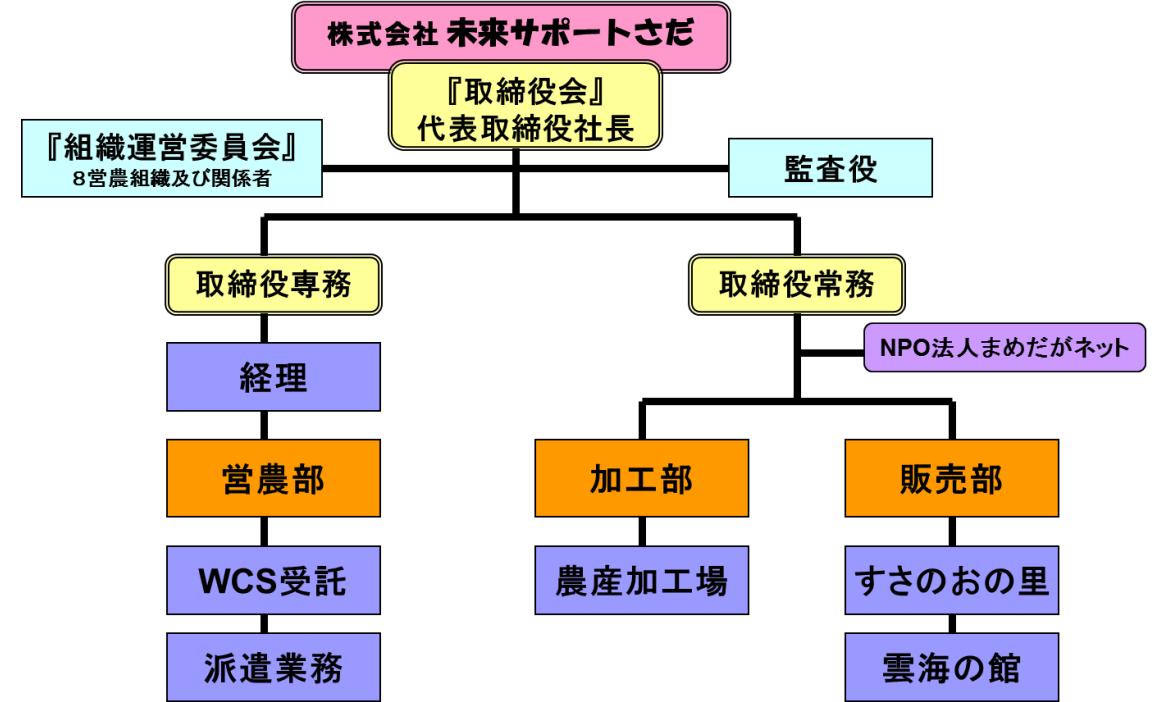
* 構成8組織の連携によるWCS
 (稲ホールクロープサイレージ)の作付
 →未来サポートさだが収穫専用機等必要機器を導入し
 収穫調整を行う。

* 構成組織は、
 WCS+ソバ や WCS+ナタネ の二毛作に取り組み、
 水田の高度活用や収益性の向上が可能になった。



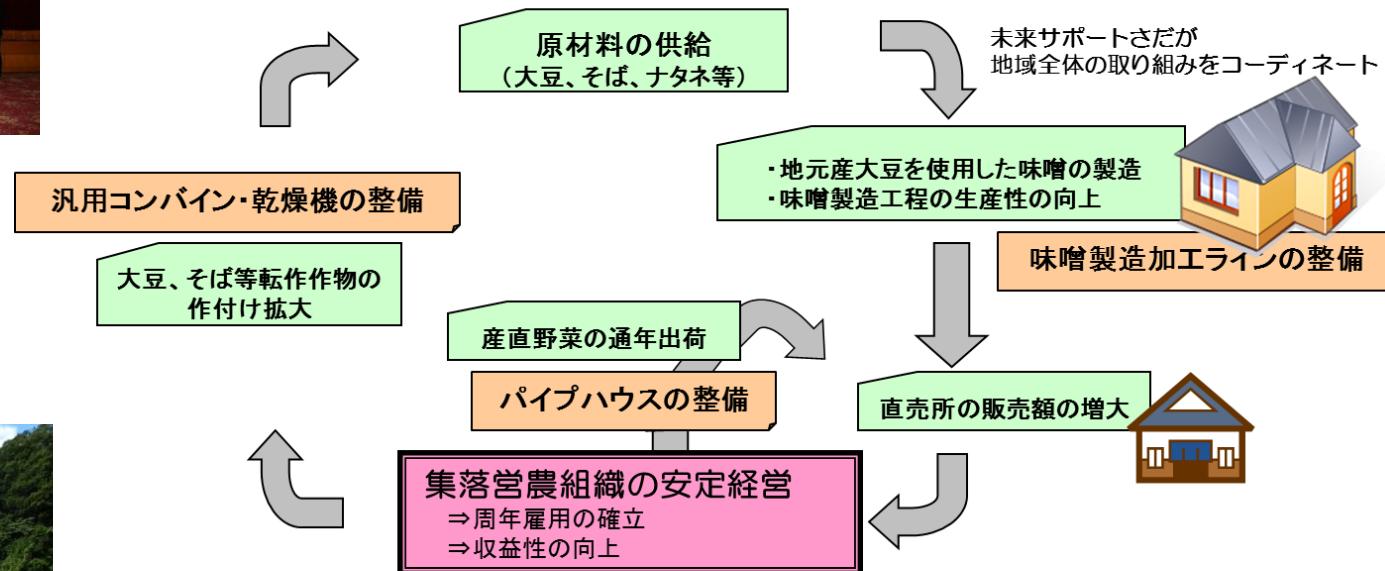
3. 法人化 (H25. 4. 1登記申請) と組織形態

会社組織による実践 ～組織イメージ～



水稲のみの、季節作業ではオペレーターの周年雇用が困難で、組織的にも収益性に限界。

- ★汎用コンバインの導入による大豆、そば、ナタネ等の栽培面積の拡大
- ★パイプハウス導入による産直野菜の通年出荷と周年雇用の実現
- ★味噌製造工程の合理化による生産性の向上と地元産大豆を原料として供給



◆未来サポートさだを構成する集落営農組織の経営強化◆
 ⇒ 地域資源(大豆、そば、ナタネ、産直野菜)の地域での活用
 ⇒ 直売所を中心とした地域経済の活性化

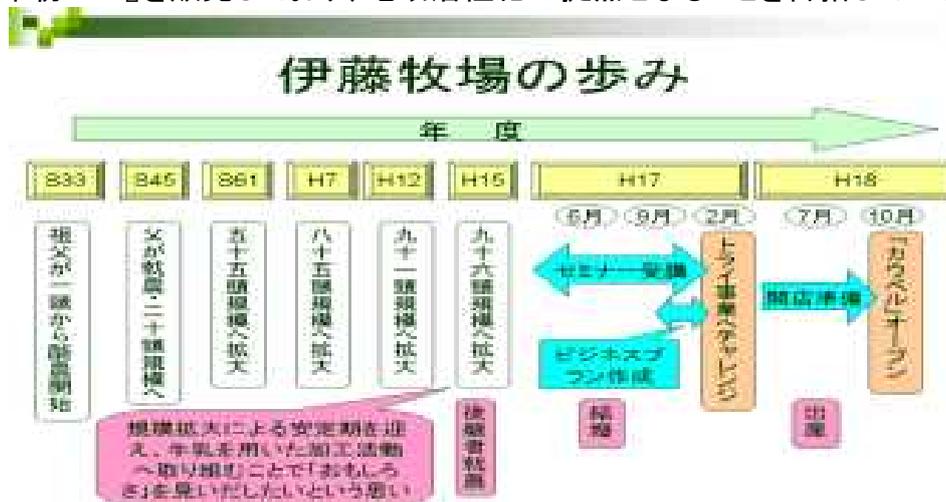
牧場のパン屋さん“カウベル”



1 事業概要

母体となる「伊藤牧場(代表:伊藤篤男)」は、搾乳牛100頭規模の酪農経営を行っている。規模拡大による酪農経営の安定化に伴い、さらなる事業展開を模索していた中で、「自ら生産した牛乳を使った加工・販売を通して地域活性化につなげたい」という代表の夢を、牧場の3代目となる後継者夫婦(学・恵美)が引き継ぎ、平成18年10月15日、佐田町初のベーカリー「牧場のパン屋さん“カウベル”」を開業した。

「カウベル」では、地元産の米粉・牛乳を使用するなど地産地消にこだわった県内でも珍しい『米粉パン』を販売しており、地域活性化の拠点となることを目指している。



2 カウベルオープンまでの取り組み経過

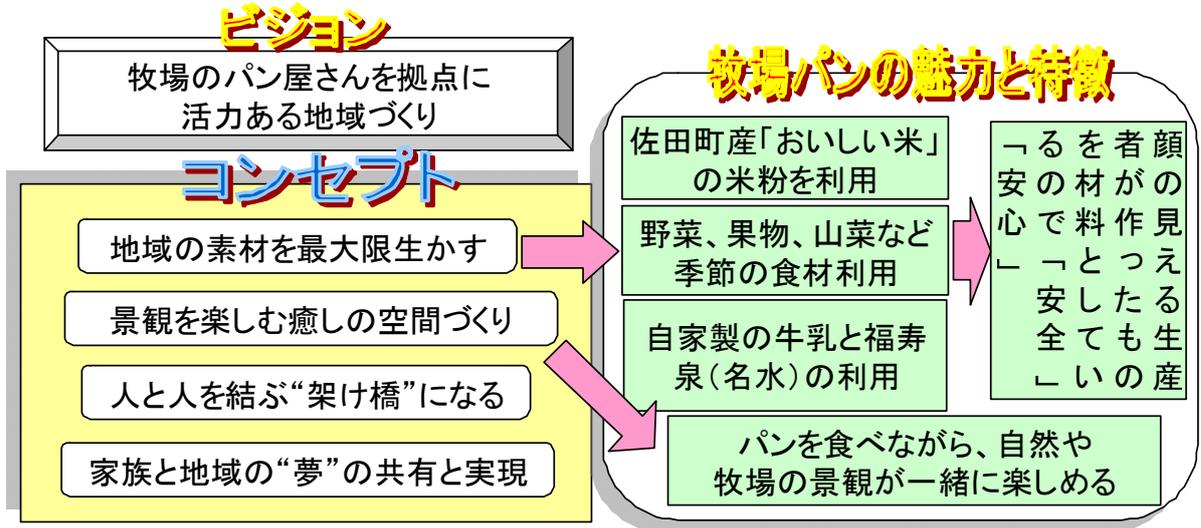
- H15年～・「牧場のコンサート」を開始
- H16年 ・松江市のパン店で技術習得
- H17年 ・出雲市のパン店で技術習得
 - ・第4回「牧場コンサート」を開催
 - ・出雲農林振興センターが開催した「アグリ起業家セミナー」に夫婦で積極的に参加し、起業のための心構えとノウハウを学ぶ
 - ・島根定住財団の「しまねづくりトライ事業」にチャレンジし、プレゼンテーションによる審査会で、助成対象の1つに選ばれる
- H18年 ・家族4人での家族経営協定の締結、認定農業者の共同申請
 - ・農業技術センター(浜田市)にて、米粉パンの基礎技術研修を受講
 - ・補助事業(たち上がる産地支援事業)を導入し、店舗・加工施設を建設
 - ・カウベルにて、パン加工の専門家より技術指導を受ける
 - ・10月15日オープン

※オープン後は、季節毎に旬の食材を使った新商品の開発、イベントの開催等を行い、お客さんを飽きさせないように努めている。

※平成19年3月から、スタンプカードを導入し、ポイント制による割引も始め、リピーターの確保を目指している。

3 カウベルの特徴・活動の内容

「カウベル」では、佐田町産の安全安心な食材にこだわった、焼きたての「米粉パン」を販売している。また、店舗には喫茶コーナーやテラスを設け、自然や牧場の景観を楽しむことのできる場を提供している。



◆◆◆米粉パンの原料へのこだわり◆◆◆

- ①「米粉パン」の原料は100%佐田町産米を使用
- ②伊藤牧場を中心とした佐田町10戸の酪農家指定の牛乳を使用
- ③地元産の新鮮な野菜や果物等を使用し、季節感ある旬の味を提供

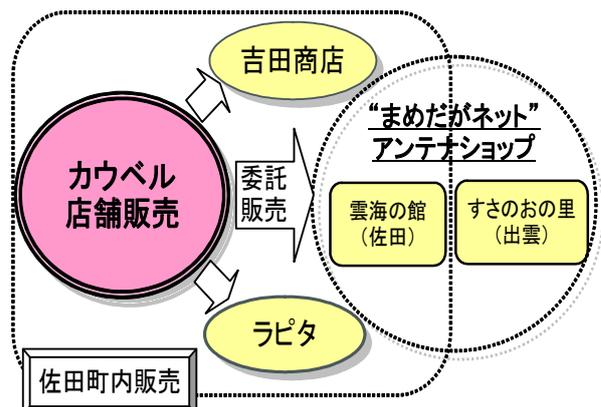
その他、米粉シフォンケーキ、米粉クッキーなど米粉100%の菓子類や、プライベートブランドの「カウベル牛乳」も販売している。平成19年4月からは、カウベル牛乳を使用した濃厚な牛乳味のソフトクリーム販売も始め、早くも家族連れを中心に人気を得ている。



また、伊藤牧場では、平成19年4月、県内2事例目となる『酪農教育ファーム』の認定牧場として指定を受けた。今後は平成20年1月に完成したセミナー棟を活用し、搾乳からバターなどの乳製品に加工してパンに付けて食べる一連の体験を通して、命・心・食の教育から真の顧客づくりを目指している。

◆◆◆カウベルの販売戦略◆◆◆

コンセプトの「パンを食べながら自然や景観を楽しんでもらう」ため、カウベルの店舗販売を中心とした地元限定の販売戦略で、差別化を図っている。一方では、佐田町の産直ネットワーク“NPO法人まめだかネット”のサテライト加工施設として、ネットのアンテナショップをPR拠点として活用し、出雲市街からの消費者を呼び込んでいる。



4 カウベル1年間の実績

・オープン以来、地域内外での反響が大きく、当初計画していた売上高の2倍以上、5年後の売上げ目標もはるかに上回る実績を上げることができた。1日平均来店客数100人、客平均単価1,000円を確保している。

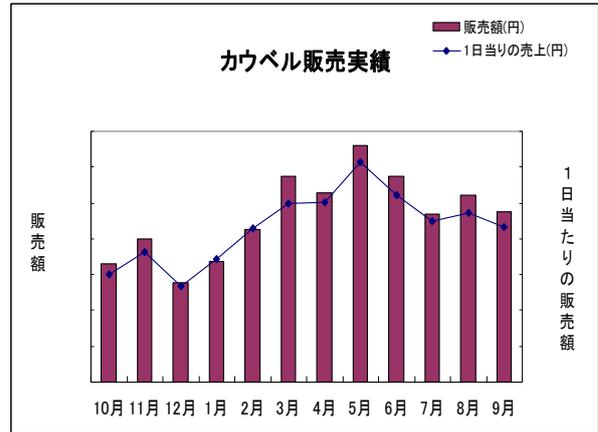
・米粉パンの珍しさもあり、マスコミ(テレビ・新聞・地方雑誌等)に取り上げられる機会が多く、PR効果が非常に高い。

・新卒者2名を常時雇用、パートで2名を雇用し、地元雇用の場となっている。

・地元若者会が中心となって、パンの素材となる玉ねぎなどの生産に取り組んだり、地元主体で緑化事業にも取り組み梅木60本を植栽するなど、地域全体の活動が活発になってきている。

・委託販売は、売上高の約20%を占めており、委託販売を行っているアンテナショップでは、米粉パンの販売をきっかけに、新たな顧客の確保や集客力の向上につながっている。

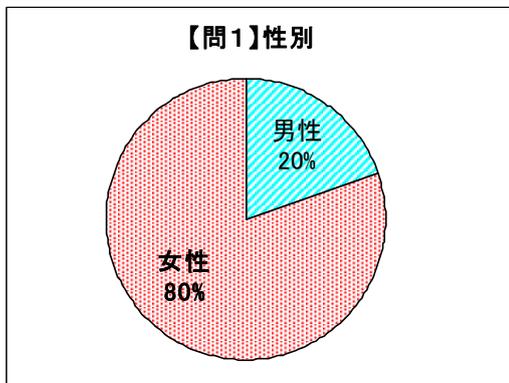
・酪農教育ファームとしても、小学生や家族連れを中心に100名を超える体験を受け入れた。



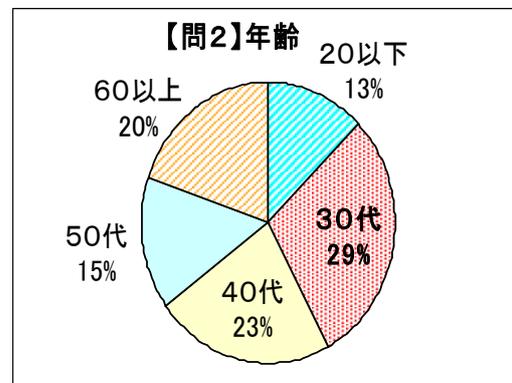
5 顧客アンケートの結果

【平成19年12月～平成20年1月実施:回答数111】

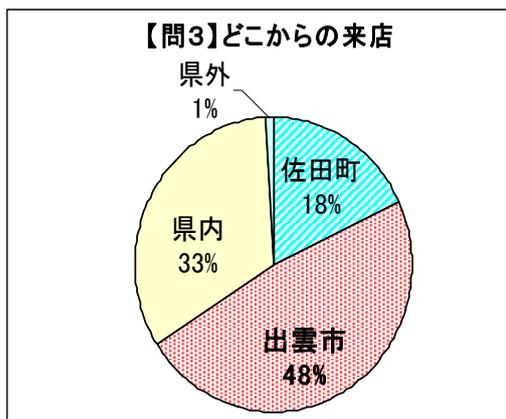
■女性客が80%



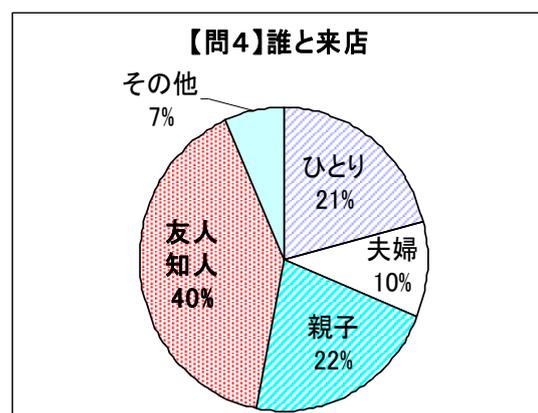
■30代が最も多いが各世代に分散



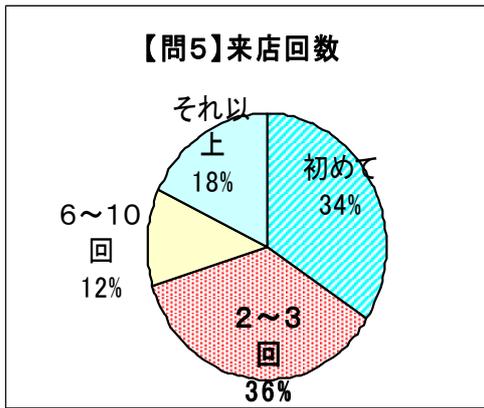
■出雲市からの来店が約50%



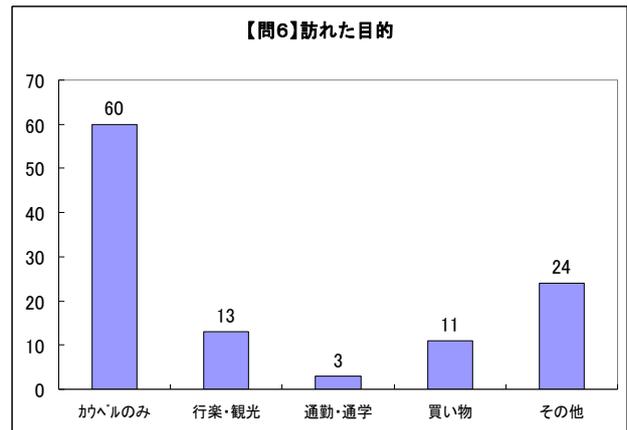
■友人・知人との来店が40%



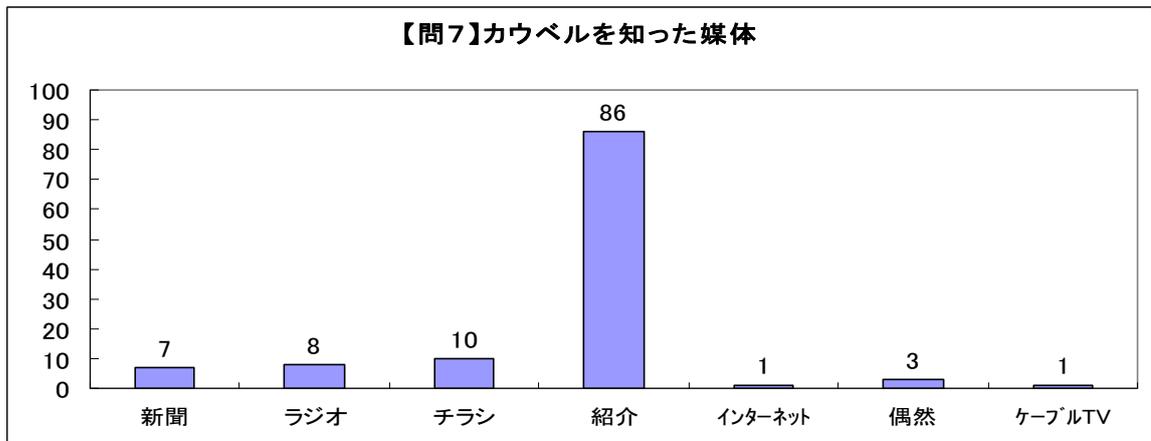
■2回以上のリピーターが66%



■54%がカウベルだけを目的に来店



■77%が知人等の紹介



➡ 友人・知人からの口コミで出雲市内の幅広い世代の女性を中心に顧客層が広がり、カウベルだけを目的に来店するリピーターが客層の中心である。

6 今後の課題

- 従業員の製パン技術習得とホスピタリティの向上
→ライフサイクルに合わせた休暇が取得できるような体制づくり
- 真の顧客ニーズに対応したパンづくりや店づくりの改善(喫茶メニュー、店内POP等)
- 効果的なPR方法(季節の便りなどのホームページの充実)や真の顧客への情報伝達方法の確立
- 酪農教育ファームによる搾乳体験やセミナー棟を活用した乳製品等の加工体験を通じた相乗効果、真の顧客づくり

牧場のパン屋さんカウベル
〒693-0506 出雲市佐田町反辺727-1
Tel/Fax 0853-84-1007
●営業時間 9:00~17:00
定休日 毎週月・火曜日
予約も承ります。お気軽にご予約下さい。

